



グエン朝王宮の太和殿

特集

東南アジア

「世界遺産」を航く

栄華を誇った王朝建築、異文化が交流した古き港町、
世界最大級の仏教遺跡、希少な動植物が棲む熱帯雨林——。
今回は、多様な自然・文化が息づく東南アジアの世界遺産の知られざる魅力をご紹介します。



自然・文化遺産の宝庫 東南アジア

世界遺産の魅力はなんとと言っても、それぞれの遺産が有する「顕著な普遍的価値」(Outstanding Universal Value)でしょう。各国を代表する遺産は、地球の歴史46億年、人類の歴史500万年の中で、多様な分野を代表するナンバーワンやオンリーワンなど、独自性のある厳選されたものばかり。そんな世界遺産を旅し、人類の偉大な叡智や驚異的な自然の美しさに触れることは何にも代えがたい感動です。

現在、世界遺産の数は161の国と地域にまたがる1007件。そんな数ある世界遺産の中から今回は、皆さんがあまりご存知でないであろう東南アジアの自然遺産、文化遺産の魅力を



〈監修〉古田 陽久(ふるた はるひさ)
世界遺産総合研究所 所長。日本における世界遺産研究の先駆者として「世界遺産学」を提唱し、1998年から現職。世界60カ国、約300の世界遺産地を歴訪し、世界遺産委員会にもオブザーバーで出席。著書に『世界遺産データブック』、『世界遺産ガイド—ユネスコ遺産の基礎知識』など多数。

お届けします。

東南アジアとは、インドシナ半島、マレー半島、インドネシア諸島、フィリピン諸島などからなる中国より南、インドより東のアジア地域を指します。大部分がケッペン気候区分の熱帯に属し、その温暖な気候と大陸部から島しょ部にいたる変化に富んだ環境の中で、特有の自然・文化が育まれてきました。

そのため、自然遺産では、火山を含む山岳、湾、半島、島、石灰岩カルスト、洞窟、珊瑚礁、地下河川、森林など。文化遺産では、考古学遺跡、建造物群、モニュメント、自然と人間の共同作品ともいえる文化的景観など、実に多様な世界遺産に出会うことができます。そんな東南アジアの世界遺産を私と一緒に巡っていきましょう。

